



国府台女子学院 小学部だより

市川市菅野3-24-1

Tel 047-322-5644

Fax 047-322-5655

2026年7月号

7月2日発行

<https://www.konodai-gs.ac.jp/>

あこがれを目標に



今年度始めた『高等部生徒による放課後学習サポートボランティア』。対象の小学部4・5年生からは、たくさんの参加希望があり、補習を受けています。ボランティアとして参加する高等部生徒たちは、補習で使用するプリントを前日までに確認し、小学部児童の質問に答える準備をして臨んでいます。担当の教員が全体に指導をした後、高等部の生徒たちは、優しく、丁寧に児童一人一人に寄り添いながら質問に答えていきます。本当に素敵なお姉さんたちです。

また、中高等部の『化学部による実験体験』があり、昨年度3学期は4・5年生、今年度1学期は6年生の希望者が参加しました。顧問の教員が見守る中、白衣を着た化学部生徒たちが説明をし、実験を進めていきます。時には説明が滞ることもありますが、一生懸命な先輩たちの姿に児童たちは皆真剣に耳を傾け、手を動かします。もっとやってみたいと感じるところで終わりにしてしまうので、また参加したい気持ちが高まります。

これまで、中高等部の先輩との交流の機会は、運動会や学院祭の様子を見るということが中心でしたので、もっと身近に接するこのような活動は、将来なりたい姿を具体的に意識できる良い機会となると考えます。あこがれを目標に替えて成長していく姿を見守っていきたいと思います。

中1アンケートより

本学院中学部では、毎年1学期に、中1の生徒を対象に、小学校時代の先生たちにも見てもらう趣旨のアンケートを実施しています。

アンケート項目にある、小学部の後輩へのアドバイスをいくつか紹介します。

「小学生の『今』を全力で楽しんでください。」

「中学部は勉強も難しくなりますが、楽しいこともあります。」

「最初は仲のよかった友達とクラスが分かれて不安でしたが、気の合う友達がすぐにできました。」

「勉強も部活もがんばっています。」

「中学部は楽しくて自由な所です。」

「小学部の時にできることはやっておいた方がいいです。勉強がんばれ！」

「順調に友達を作れています。」

「中学部は勉強も部活も楽しいので、楽しみにしてください。がんばって！」

「気の合う友達をみつけられました。」

皆それぞれに学習や部活動、友達との関わりを楽しんでいることが伝わってきて、安心いたしました。

中1生の皆さん、これからも充実した学校生活を送ることができるよう応援しています。

『乞食(こつじき)と盂蘭盆会』

江戸時代のことわざに「坊主と乞食は三日やるとやめられない」というものがあります。現代では不適切な表現であり、「一度楽な環境に身を置くと抜け出せなくなる」という僧侶への揶揄や、差別的な言葉として捉えられがちです。しかし、この「乞食」を仏教の文脈で正しく解釈すると、そこには私たちが忘れがちな「慈悲」や、現代のボランティアにも通じる「利他」の精神が息づいています。仏教における「乞食(こつじき)」とは、「欲望を捨て、他者から施しを受けることで謙虚さを学ぶ修行」であり、いわゆる「托鉢(たくはつ)」と同義です。古代インドの出家修行者たちは自ら生産手段を持たず、他者からの施しによってのみ命を繋いでいました。これは、己の傲慢さを削っていき、生かされていることへの謙虚さを養う修行でした。同時に、お布施をする人々にとっても、自らの執着心を離れて徳を積む利他行でもありました。現在も永平寺の僧侶たちが行う「寒中托鉢」の模様を、ニュース等で観たことのある方もおられるでしょう。さて、四半世紀前の話ですが、二十代半ばの私は京都の本願寺で学んでいました。当時の課題に、京都市近郊の集合住宅を訪問して仏法を聞いていただくカリキュラムがありました。当時は地下鉄サリン事件の直後で、日本全体が強い宗教アレルギーの渦中にあった時期です。訪問説法の結果は厳しく、誰一人として話を聞いてはくれませんでした。インターホン越しに相手の嫌悪感や怪訝そうな声が響くばかりで、世間の現実を目の当たりにした私は、重たい心持ちで寮に戻ったことを覚えています。暗い顔している私たちに対し、先生の講評は厳しいものでした。「今まで伝統や御門徒(檀家)さんに守られてきたあなた達は、世間に出れば、誰からも相手にされない世間知らずにすぎません。そんなあなた達を、まだ世間の皆さんは生かしてくれています。そのことに気づいた今この瞬間から、仏法を真摯に学び、謙虚な心で人々に寄り添う『乞食(こつじき)』の生き方を心がけなさい」と。この言葉は、私たちの甘えを強く戒めるものでした。

この「乞食」によって得られる利他の精神と功德の尊さを、私たちに伝える行事こそがお盆(盂蘭盆会)です。お盆の由来には、お釈迦様の弟子である「目連(もくれん)尊者」の物語があります。亡き母親が餓鬼道に落ちて苦しんでいる姿を知った尊者は、悲しみに暮れました。お釈迦様は「夏の集中修行(安居)を終えた僧侶たちが集まる7月15日に、心からの施し(供養)をきなさい」と諭されます。尊者がその教え通りに精いっぱい供養を捧げたところ、その功德によって母親は救われ、極楽に生まれ変わったと伝えられています。「他者のために自らを差し出す」「功德を分かち合う」というこの精神は、現代の「ボランティア活動」とも重なります。ボランティアとは、単に「余裕があるから誰かを助けてあげる」という一方通行の慈善ではありません。自らの時間や労力を差し出す(布施する)ことで他者と繋がり、自らの独りよがりな心を省みる。そして、誰かの役に立てる喜びを通して、逆に自分自身が豊かな心を「いただいている」ことに気づかされる連環の行いなのです。「坊主と乞食は三日やるとやめられない」ということわざは、蔑みや皮肉だけではなく、「仏道を求める真摯な歩みと、その修行の心地よさに触れたなら、もはや仏道をやめることなどできない」という、求道の素晴らしさを表したものと私は捉えています。言葉の由来を考えてみた時、盂蘭盆会の意義は、より一層深まります。今年のお盆は、形だけの供養にとどまらず、目連尊者の物語やボランティア精神にあるような「他者を思いやる心」を大切に、今は亡き祖先、そして身近な人々へと感謝の気持ちを広げていく仏教行事にしていってほしいと念じています。

7月行事予定



1日 第4回学校見学会 (受験希望者対象)	13日 スポーツテスト
4日 休業日	14日 盂蘭盆会
第2回学校説明会 (受験希望者対象)	15日 成績会議のため自宅学習
6日 朝会	18日 終業式
7日 クラブ	21～25日 前期夏期講習 5・6年生
9日 短縮日課開始 委員会(5年生以上)	22～24日 4年生高原学校
10日 4・5・6年生学力テスト	8月9～19日 学校閉鎖
11日 5・6年生学力テスト	8月21～26日(除23日) 後期夏期講習4・5・6年生
	☆9月1日(火) 2学期始業式

20万人目の来館者！！

6月12日(金)、1年生が江戸川区にある『魔法の文学館』へ校外学習に出かけました。いちご色の壁、開放的な中央階段、個別のスペース等、『魔女の宅急便』等の作者である角野栄子さんの作品世界を体験しながら、本の世界をゆったりと楽しむことができました。

そして、何と、20万人目の来館者に当たり、館長である角野栄子さんがいらしての記念セレモニーに参加することができました。記念に角野栄子さん直筆の額絵2枚をいただきました。小学部図書室に飾っています。読書を通して、子どもたちの興味関心がさらに広がっていきますように！

今月の目標

「正しい言葉づかいをし、礼儀正しくしましょう。」